

町田市×NHK 共生社会の実現を目指して

町田市とNHKは、聴覚障がいが壁となることのない共生社会の実現を目指し、ドラマ『しづかちゃんとパパ』のトークイベントを今年8月20日に町田市民フォーラムで開催しました。

番組制作者と手話指導者たちが、主人公を「ろう者」としたドラマの制作秘話を語つただけではなく、共生社会の実現に向けて考えるきっかけとなる内容が盛りだくさんのイベントの様子をお伝えします。



ドラマ『しづかちゃんとパパ』とは

今年3~5月にNHK BSプレミアムで放送。

ろう者である父・純介（笑福亭鶴瓶）の耳代わり口代わりをつとめてきた娘・静（吉岡里帆）が、圭一（中島裕翔）と出会ったことから、やがて親離れ子離れすることになるまでのてんまつを描くホームコメディドラマです。

第48回 放送文化基金賞優秀賞・演技賞受賞
(演技賞:笑福亭鶴瓶)

第38回 ATP賞テレビグランプリ優秀賞受賞



出演者への手話指導時の数々の秘話や、鶴瓶さんからのビデオメッセージも寄せられ、会場は大盛り上がり！



ドラマ手話指導者からの手話レッスン

ドラマで出演者が実際に使った手話の指導も！



スポーツ中継に合わせて、自動で手話CGを作成する技術などみなさんにとってもらいました。

イベント登壇者

- 海辺 潔（ドラマ制作統括、元NHKチーフ・プロデューサー）
- 松原 浩（ドラマ制作統括・演出）
- 江副悟史（ドラマ手話指導、「日本ろう者劇団」劇団代表・俳優）
- はせ亜美（ドラマ手話指導、手話通訳士）

大盛り上がりだったイベントの様子はこちから！

<https://steranet.jp/articles/-/859>



聴覚障がいを取り扱うドラマならではの制作秘話

トークイベントでの登壇者の言葉をピックアップ

「取材する中で感じた、当事者が嫌だと思うことについては、ドラマでは描いていません。唇を読むような作品も多いですが、実際は相当難しいんです。そういう都合の良いこともやめようと。また制作側としては、デフ・ヴォイス（ろう者の発する声）で良いセリフをどうしても言わせたくなりがち。ただそれだと、聞こえる世界にろう者を合わせてしまうことになるんですよ。これも取材で学びました。」

松原さん

手話

「作品を作るうえで、NHKの過去のドキュメンタリー番組を見返したり、コーダのご家庭に伺ったり、徹底的に取材を行いました。そこで、手話をしている聴覚障がい者は、意外と少ないと知ったんです。中途失聴者は、手話を覚えられない方も多いんですね。聴覚障がい者をひと括りにしてはいけないと改めて実感しました」

海辺さん

ろう者・コーダとしての実話

※コーダ：【CODA...children of deaf adults】の略。
聞こえない、もしくは聞こえにくい親をもつ、聞こえる子どもたち

手話

「私に子どもが生まれたとき、お医者さんに『良かった！聞こえていますよ』と言われたんです。『耳代わりができてよかったということなのか？』と色々考えてしまいました。ただ息子に通訳を頼んだことは一度もありません。助けてもらうことが普通になってはいけないと思いますので」

江副さん

手話

「もちろん人それぞれ経験してきたことは違うと思いますが、私は、『かわいそう』とか『哀れな子だね』なんて、心無い言葉をかけられることも多かった。だから、小さいときはろう者になるのが本当に夢だったんです。嫌な言葉を聞くこともないし、手話ができるので会話も十分できますから」

はせさん

※はせさんはコーダ

これからも障がい理解促進につながる福祉への取り組みを続けていきます

NHK